

Sport・小郡

第6号

2021年6月発行



白水会長による『矢渡し』

大会の無事を願って「矢を一本通す」という古くからのしきたり。今でも必ず行われているもの。場は、一瞬で神聖な空気に。

令和3年3月6日(土)、小郡市弓道連盟の「初射会(はっしゅかい)」が2か月遅れで開催されました。

白水隆資会長は「新型コロナウイルスの影響で延期してきた。今回も開催を迷ったが初射会をしないとはじまらない。弓道場は開いており換気ができている、また距離をとって行う競技であるからと検温、消毒、競技中以外はマスク着用など感染対策をとった上での実施を判断されました。

会場は通常の弓道衣ではない黒紋付きや着物姿の会員で厳かな雰囲気。「流派は大きく2種類。公家の弓である儀礼的な要素の礼射(れいしゅ)系と、武士の弓である武射(むしゅ)系。どちらもしきたりを重んじる。もとは神事だったこともあり、所作にもすべて意味がある。それは文化でもある」と会長が話してくださいました。

会員各々の目的(昇段、楽しみに応じた指導をしているそうですが、「市内には弓道部がない。指導者を派遣してでも部活動を」と若手の育成と「文化としてのスポーツ」をいかに継承していくかを連盟の、そしてご自身の課題として日々活動されていることを強く感じました。